



# 日本統計学会 会報 2023.1.31

No.  
194

発行—— 一般社団法人 日本統計学会  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F  
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局  
Tel & Fax : 03-3234-7738  
編集責任—大森 裕浩 (理事長) / 小池 祐太 (庶務理事)  
中島 上智 (広報理事) / 城田 慎一郎 (広報委員)  
高橋 慎 (広報委員)  
振替口座—00110-3-743886  
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

## 目次

1. 巻頭随筆：Japanese Journal of Statistics and Data Science 立ち上げから5年半の歩み… 青嶋 誠… 1
2. 2022年統計関連学会連合大会の報告 …… 飯塚誠也・小森 理・黒田正博… 3
3. 2023年統計関連学会連合大会のお知らせ（第一報） …… 竹内光悦・西山慶彦・橋口博樹… 7
4. 第17回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報） …… 大森裕浩・吉羽要直・中山厚穂ほか… 8
5. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集 …… 大森裕浩… 9
6. 2023・2024年度代議員選挙結果 …… 小池孝明・矢野恵佑… 12
7. 理事会・委員会報告（2022年10月1日開催） …… 12
8. 博士論文・修士論文の紹介 …… 15
9. 学会事務局から …… 15
10. 投稿のお願い …… 15

## 1. Japanese Journal of Statistics and Data Science 立ち上げから5年半の歩み

青嶋 誠（筑波大学）

2022年10月末をもって、2017年から務めたJapanese Journal of Statistics and Data Science (JJSD) の編集長を辞任しました。編集が軌道に乗り、編集長就任時の目標も達成の見通しがあるとの知らせを受けましたので、JJSDは節目を迎えるものと判断し、現統計関連学会連合理事長の樋口知之先生（日本統計学会会長）に、辞任の申し出をさせてもらいました。現在、新編集長の増田弘毅先生のもと、JJSDは第二フェーズに進んでいます。本稿は、JJSDのこれまでの歩みを纏めるものです。

日本統計学会会報 No.173 (2017.10.30) に、当時の統計関連学会連合前理事長の岩崎学先生が執筆された「Japanese Journal of Statistics and Data Science 発刊の経緯」があります。統計関連学会連合がオフィシャルジャーナルを発行しようという構想は、岩崎先生が連合理事長に就任された2015年4月から連合理事会で議論され、議決までに1年半を要

したとのこと。連合は、日本統計学会、日本計算機統計学会、日本行動計量学会、応用統計学会、日本計量生物学会、日本分類学会の6学会からなり、学会ごとに事情が異なるため、一筋縄ではないご苦労があったかと想像します。岩崎先生のご尽力に敬服します。岩崎先生からは、編集長として本構想に関わるようにと何度か熱心なお誘いを頂戴していました。2017年4月、栗原考次先生が理事長になられ、編集長就任の依頼を正式に受けました。

創刊までの1年は、Springer社との契約、雑誌名の決定、事業委員会の立ち上げ、編集委員会の立ち上げ、編集システムの立ち上げ、創刊号の企画立案や投稿募集などを、怒涛の如く進めました。事業委員会の栗原先生と岩崎先生には、特に契約面で大変お世話になりました。先生方のお陰で、編集に注力することができました。編集面は、当

時、私が Journal of the American Statistical Association (JASA), Journal of Multivariate Analysis (JMVA), Statistica Sinica など5誌の編集を手掛け、過去には日本統計学会欧文誌の編集長、日本統計学会和文誌の編集長、Communications in StatisticsのGuest Editorなどを務めてきましたので、その経験とネットワークを活用しました。雑誌名については、数多ある(ときに怪しい)雑誌との差別化を図るために、統計関連学会連合が運営することを強調して、敢えて名前に‘Japanese’を入れました。創刊号(JJSD, 2018)の“A new journal in data science”には、この経緯を書きました。また、創刊号の特集として“Special feature: perspectives on data science for advanced statistics”を企画しました。執筆期間が僅か半年の無理なお願ひにも国内外の錚々たる先生方が執筆にご賛同くださり、2017年12月に予定の原稿が揃い、2018年4月には査読・改訂・校正へと進み、10編の特集論文と3編の原著論文など計13編からなる246頁の創刊号を、2018年6月に刊行しました。短期間での査読願ひとなったにも拘わらず質の高いレポートをお送りくださった国内外の先生方、そして、厳正な審査プロセスをスケジュール通り進めてくださった編集委員の先生方には、頭が下がるばかりです。お陰さまで創刊号はダウンロード数が4万を超え、JJSDは出版界に驚きをもって迎えられました。

第2号以降の特集やサーベイ論文の企画は、各学会を代表する15名のCoordinating Editor (CE)の先生方とAssociate Editor (AE)の先生に、担当をお願いしました。お陰さまで、6月と12月に発行する2つの号の総ページ数は、435頁(2018年)、667頁(2019年)、746頁(2020年)、1321頁(2021年)と順調に発展しました。特に2021年は、6月号の特集担当の増田先生と、12月号の特集担当の江村剛志先生、Il Do Ha先生のご尽力により、掲載52編中33編が海外からの投稿です。私が辞任する2022年10月まで、投稿数は毎年100本程を維持し、採択率は35%でした。投稿から査読を終え編集長の私がFirst decisionを著者に通知するまでの日数は、33日です。これは大変優秀な成績です。

雑誌のスピードは、著者から信頼を得るための一つの指標です。この点、Springer編集部には、私の無理な注文も最大限に対応していただきました。立ち上げ時の簡素な編集システムをトップジャーナルの編集環境にすべく、様々な改善を提案させてもらいました。それでも、著者からは、私が見落としした遅延案件にクレームを頂戴したこともあります。その度に真摯に迅速に改善してきました。事務局から届く投稿が私の手元に滞在する時間は、概ね5分です。CE, AE, レフェリー、著者、そして事務局、これらの何処の段階で遅延が発生しているのかを検出し、可能な限り自動でマネジメントする編集システムを目指しました。

JJSDの‘Fast track’, ‘High quality’, ‘Broad audience’という3つのメリットは、創刊時から至る所で宣伝してもらいました。創刊翌年の2019年には、Springer 統計学分野ダウンロード数のトップ10に、JJSDから3つの論文がランクインするという快挙が飛び込み、さっそく統計関連学会連合にJJSD広報のためのTwitterを開設してもらいました。2020年には、創刊2年キャンペーンをSpringer社にお願いし、2か月間のフリーアクセス化が実現しました。また、同年、Transformative Journalに登録し、将来の完全オープンアクセス化に向けて舵を切りました。2021年には、お陰さまでScopusに採択され、CiteScoreが付与されました。さらに、Emerging Sources Citation Indexにも採択され、Web of Scienceに登録されました。また、編集委員会において5%にも満たなかった女性比率について改善を図り、CEから推薦のあった女性研究者の多くの方にご賛同いただき、JJSDの編集にお力添えを賜ることとなりました。編集委員会の女性比率は20%となり、これはレフェリーの女性比率と同程度です。

編集長就任時、Impact Factor (IF)の取得が一つの目標になっていました。私は、IFに偏重した編集は好ましくないものの、正当な評価としてIFが付与されることは望ましいことであって、宣伝効果があるだろう、という考えで進めてきました。2022年の辞任まで、Springer編集部とも何度かIF

戦略会議を開き、編集委員会で幾つかの戦術を試みてきました。成果は着実に現れています。IF付与の条件は変わる可能性があります。お陰さまでJJSDはいい位置に来ています。

私はJJSDの第一フェーズの編集長として、当たり前前の指揮と営業をただけで、特別なことをしたわけではありません。JJSDは、増田編集長のもと第二フェーズに入りました。これからは、編

集委員会のスリム化による機動力が大事になることでしょう。きっと、増田編集長のもと新体制が動き出す頃に、好い知らせが届くのではないのでしょうか。そうなることを願います。末筆ながら、皆様方のJJSDへのご支援に心から御礼申し上げますとともに、今後の発展にもお力添えの程、何卒、宜しくお願い申し上げます。

## 2. 2022年統計関連学会連合大会の報告

運営委員長 飯塚 誠也 (岡山大学)  
実行委員長 小森 理 (成蹊大学)  
プログラム委員長 黒田 正博 (岡山理科大学)

### 1. 大会概要報告

飯塚 誠也 (岡山大学)

2022年度統計関連学会連合大会は、2022年9月4日(日)～8日(木)に統計関連学会連合に所属する6学会(応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会)の主催により開催されました。4日は市民講演会とチュートリアルセッションが、5日～8日は本大会が行われました。コロナ禍の影響もあり、成蹊大学において、現地開催とオンライン開催の併用(ハイブリッド開催)で行いました。

昨年に引き続き大会開催期間を5日間で行いましたが、大きな問題もなく無事終了でき、大変嬉しく思います。市民講演会の参加者は166名でした。また、参加登録者として、チュートリアルが271名、本大会参加登録者数は968名でした。講演件数は302件(キャンセルを除く)にのぼり、今年度の大会は盛会のうちに終了しました。講演件数の内訳は、プレナリーセッション1件、特別企画セッション1件、企画セッション106件(ソフトウェア・デモンストレーションセッション2件を含む)、一般セッション159件、コンペティションセッション35件でした。

今回の大会が無事に終了し、また大会の円滑な

運営を行うことができましたのも、ひとえに関係者の皆様のご理解とご支援によるものと心より感謝しております。講演者、座長、企画セッションオーガナイザー、参加者の皆様に御礼を申し上げます。また、今回の大会は初のハイブリッド開催となりましたが、例年と変わらぬご協賛をいただいた多くの企業・団体様にも重ねて御礼申し上げます。連合大会は今回で21回目を迎え、オンライン開催も3年目となり運営のノウハウも昨年よりは蓄積されています。一方で、今年度も委員の負担軽減のため、一部の事務局業務について外部委託を行いました。一昨年の大会から導入したウェブサービスや、今大会より導入したQRコードによる当日受付などにおいてもおおむね円滑には運用できましたが、まだまだご不便な点などもあったかと思えます。それを大きな心で受け入れてくださった6学会の会員の皆様のご理解、ご協力に感謝申し上げます。最後に、樋口組織委員長、小森実行委員長、黒田プログラム委員長、橋口プログラム副委員長、竹内運営副委員長をはじめ、ボランティアで活動してくださいました、実行委員、プログラム委員および運営委員の皆様、成蹊大学の技術職員およびアルバイト学生の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

## 2. 市民講演会・チュートリアルセッション報告

小森 理 (成蹊大学)

今年の市民講演会では、横浜市立大学の小野陽子氏に、「世界はDSでできている～考える葦と多様性～」というタイトルで御講演して頂きました。多様性、公平、包摂性がこれからの社会では必須であり、データ思考で未来を創造すること、データからストーリーを紡ぐ重要性を分かりやすく概説して頂きました。また WiDS (Women in Data Science) の活動内容も御説明して頂き、日本のデータサイエンス研究・教育を推進するうえで、非常に示唆に富む御講演となりました。現地、オンラインともに大勢の参加者があり、盛況のうちに終了となりました。

続くチュートリアルでは国立環境研究所の深谷肇一氏、森林総合研究所の伊東宏樹氏に、「生態学における階層モデルの応用」というタイトルで御講演して頂きました。2021年2月に出版された邦訳「生態学のための階層モデリング」の内容に基づき、サイト占有モデル、二項N混合モデル、多項N混合モデル、それらを発展させたいくつかのモデルを実例を交えながら非常に分かりやすく解説して頂きました。生態学のアイデアを階層モデルを通してどのように実装していくかがよく分かる内容でした。後半の伊東氏の御講演では、上記の階層モデルをどのようにプログラムで実装するかを、JAGS, NIMBLE, Stan を使って解説して頂きました。現地、オンラインともに多くの質問があり、盛況のうちに終了となりました。

最後に、市民講演会とチュートリアルセッションの開催に際して、御講演を快くお引き受けくださった3名の先生方に改めて感謝申し上げます。

## 3. プレナリーセッション・企画セッション報告

南 弘征 (北海道大学)

黒田 正博 (岡山理科大学)

連合大会初日の9月6日(月)午後、プレナリーセッションが開催されました。今年度は「赤池メモリアルレクチャー賞」の第4回受賞者である Aapo Hyvarinen 教授 (University of Helsinki) に

「Identifiability of latent-variable and structural-equation models: from linear to nonlinear」というタイトルでご講演いただきました。

その他に本大会では、ソフトウェア・デモンストレーションセッションを含む29件の企画セッションが開催されました。セッション名とオーガナイザー(敬称略)を以下に示します。

(01) デモンストレーションセッション(飯塚誠也(岡山大))

(02) 日本統計学会各賞授賞式・日本統計学会各賞受賞者記念講演(1)(大森裕浩(東京大))

(03) 日本統計学会各賞授賞式・日本統計学会各賞受賞者記念講演(2)(大森裕浩(東京大))

(04) 統計数理研究所医療健康データ科学研究センター「医療統計学のフロンティア」(松井茂之(名古屋大・統数研), 伊藤陽一(北海道大病院), 田栗正隆(東京医大))

(05) 応用統計学会企画セッション「カーネル型推定の最近の発展」(前園宜彦(中央大))

(06) 状態空間モデリング研究の展開(菅澤翔之助(東京大))

(07) 「建設工事受注動態統計調査」問題を受けて - 公的統計の改善に必要なものとは? - (肥後雅博(東京大))

(08) 「統計改革」の新地平(肥後雅博(東京大))

(09) 2022 JSS-KSS-CIPS Joint Session for Young Researchers (各務和彦(名古屋市立大))

(10) 2022 JSS-KSS-CSA Joint Session (1): Computational Statistics (各務和彦(名古屋市立大))

(11) 2022 JSS-KSS-CSA Joint Session (2): Complex Data Analysis (各務和彦(名古屋市立大))

(12) 2022 JSS-KSS-CSA Joint Session (3): Machine Learning (各務和彦(名古屋市立大))

(13) 深層生成モデルによる時系列モデリング(樋口知之(中央大), 中村和幸(明治大))

(14) 大規模データにおける匿名加工とプライバシー保護の新たな展開(佐井至道(岡山商科大), 星野伸明(金沢大), 伊藤伸介(中央大))

(15) JJSD セッション(各務和彦(名古屋市立大), 菅澤翔之助(東京大))

(16) 非対称分布の理論と応用 (吉羽要直 (東京都立大))

(17) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演 (安藤友紀 (医薬品医療機器総合機構), 川口淳 (佐賀大), 五所正彦 (筑波大), 田栗正隆 (東京医大), 長谷川貴大 (塩野義製薬))

(18) 応用統計学会学会賞受賞者講演 (南美穂子 (慶應義塾大), 姫野哲人 (滋賀大))

(19) 企業における統計学の実践と新たな展開 (南美穂子 (慶應義塾大), 黒木学 (横浜国立大), 廣瀬慧 (九州大))

(20) 地震ビッグデータ解析の最前線 (長尾大道 (東京大), 加藤愛太郎 (東京大), 矢野恵佑 (統数研))

(21) アジアの公的ミクロ統計の活用 (馬場康維 (統数研))

(22) 日本計量生物学会40周年記念シンポジウム「計量生物学の発展と今後の展開」(安藤友紀 (医薬品医療機器総合機構), 川口淳 (佐賀大), 五所正彦 (筑波大), 田栗正隆 (東京医大), 長谷川貴大 (塩野義製薬))

(23) 諸分野に向かう統計・数理・データ科学 (林邦好 (京都女子大), 宮路智行 (京都大), 中野直人 (明治大))

(24) Society 5.0 の実現に向けた統計教育に関する動きと課題 (竹内光悦 (実践女子大), 藤井良宜 (宮崎大), 渡辺美智子 (立正大))

(25) 公的統計ミクロデータ利活用の現状と課題 (南和宏 (統数研), 伊藤伸介 (中央大), 高部勲 (立正大))

(26) 日本計算機統計学会企画セッション「計算機集中手法の最前線」(中村永友 (札幌学院大))

(27) 生存時間解析・イベントヒストリー分析 (江村剛志 (久留米大))

(28) 統計エキスパート人材育成 - 多様な分野での統計活用へ (1) (中西寛子 (統数研))

(29) 統計エキスパート人材育成 - 多様な分野での統計活用へ (2) (中西寛子 (統数研))

#### 4. コンペティションセッション報告

橋口 博樹 (東京理科大学)

今年度は、9月5日(月)から9月7日(水)の3日間にわたって6つのコンペティションセッションが設けられました。全部で41件の発表申込がありましたが、審査対象となったのは35件でした。発表申し込み締め切り日までに、関連学会への入会あるいは入会の手続きが確認できなかった6件は審査対象外としました。

審査では、今年度もこれまでと同様に、研究内容とプレゼンテーションの双方を評価対象としました。限られた時間で、専門外の人に対して、いかに自分の研究内容を報告するかということも重要な評価項目です。原則として7名の審査員が審査を担当し、各発表に対してA(4点)~E(0点)の評価を与えました。全審査員のスコアの最大値と最小値を除いた刈り込み平均により順位をつけ、最優秀報告賞と優秀報告賞を決定しました。

選考の結果、最優秀報告賞1件、優秀報告賞4件が選ばれ、9月8日(木)の12:10からハイブリッド形式により表彰式を執り行いました。

最後に、審査員および座長をお引き受けいただいた方々にこの場を借りて御礼申し上げるとともに、ご発表いただいた全員の方々の研究が今後益々進展することを願っております。

今年度の表彰者は下記の通りです。

##### 最優秀報告賞 (1件)

津田 俊樹 (東京大学)

「操作変数による非スパース高次元な線形回帰モデルの良性過適合」

##### 優秀報告賞 (4件)

書川 侑子 (電気通信大学)

「二値データにおける馬蹄事前分布によるベイズアン連結 lasso 回帰モデリング」

栗崎 正博 (東京大学)

「線型確率微分方程式で表される状態空間モデルにおけるパラメータ推定」

豊田 祥史 (総合研究大学院大学)

「ラベルの階層性による不変学習」

桃崎 智隆 (東京理科大学)

「ダイバージェンスを用いた ordinal response model

におけるロバストなベイズ推定」

## 5. コンペティションセッション受賞者の言葉 最優秀報告賞

津田 俊樹 (東京大学)

この度はコンペティションセッションにおいて最優秀報告賞を頂き、大変光栄に思います。企画・運営をして下さった関係者の皆様並びに、審査を担当して頂いた先生方に深く感謝申し上げます。また、共同研究者の今泉先生をはじめとした日頃から指導して下さる先生方、ならびに家族や友人にも、感謝致します。本発表では、高次元かつ非スパースな状況において、共変量とノイズが相関するという内生性が存在する場合における良性過適合の十分条件について報告しました。操作変数を使って共変量を記述することで、共変量とノイズにおける相関をモデリングし、先行研究で行われている解析方法を内生性が存在する場合にも適用できるように拡張することで新たな十分条件を導出しました。今後はより広い状況にも適用できるような十分条件について研究していきたいと考えています。

今回の受賞を励みに、今後も精進していきたいと思えます。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

## 優秀報告賞

書川 侑子 (電気通信大学)

この度はコンペティションセッションにおいて優秀報告賞をいただき、大変光栄に存じます。審査をご担当くださった先生方、発表の機会をいただきました学会関係者の方々に深く感謝いたします。また、ご指導をいただきました指導教員の川野秀一先生をはじめ、研究発表にご助力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

本報告ではグループ構造を持つデータの解析を目的とし、馬蹄事前分布によるベイジアン連結lassoを用いたロジスティック回帰モデルを提案いたしました。馬蹄事前分布を回帰係数の併合項に用いることで変数の構造をより正確に反映した推

定を可能にした他、事前分布の階層表現を用いてギブスサンプリングを構成し、簡便な推定法として提案しました。

今回の受賞を励みに、より良い研究ができるよう日々精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

栗崎 正博 (東京大学)

この度はコンペティションセッションにおいて、優秀報告賞を頂き、大変光栄に思います。研究を支えてくださった先生方、審査をしてくださった先生方、大会を運営してくださった方々、講演を聞いてくださった方々をはじめ、すべての関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

本報告では、離散観測される線形の確率微分方程式で表される状態空間モデルに対し、未知パラメータの最尤推定量を構成し、その漸近正規性を示しました。さらに、実際に有限個のデータを用いて推定を行う場合には、推定量を構成する際の初期値によって推定の精度が落ちてしまうことを指摘し、推定量の修正方法を提案しました。

豊田 祥史 (総合研究大学院大学)

この度は、統計連合大会という由緒ある学会の優秀報告賞を頂き誠に光栄に思います。このような若手研究者を応援する舞台を設定して下さった関係者の皆様に深く感謝申し上げます。並びに、博士課程を通じて“良い研究をする”とは何かを一から教えてくださった福水健次先生、いつも研究を応援して下さっている統計数理研究所のスタッフの方々に深く感謝致します。

本発表では、統計的不変性推定のアノテーションコスト削減法を提案しました。不変性推定法は高い外挿性を持つ推定器の学習法として注目されています。しかし、その実装にはラベルがアノテーションされた大量のデータを要します。そのため、外資IT企業をはじめとしたデータの、資金的に恵まれた企業のみで使用が許された技術になる危険性があります。歴史に鑑みるに、過度な独占市場は社会として避けるべき事態であり、方法論の立

場からその状況の緩和を行うことは重要であると思いい研究に従事しています。

現代社会は統計学、統計的学習に比重をおいて文明を進めることを選択し、方法論の体系が社会のあり方を左右するにまで至っています。まだまだ未熟な私ですが、この社会の中で方法論がどういう形態であるべきかを私なりに深く考え、価値があると思う研究を着実に進めていきたいと思ひます。この度はありがとうございました。

桃崎 智隆 (東京理科大学)

この度はコンペティションセッションにおいて、優秀報告賞を頂き、大変光栄に思ひます。企画および運営をされた先生方、審査にご参加くださった先生方に深く感謝いたします。また共同研究者で本研究を進めるにあたり大変お世話になった中川智之先生、修士時代の指導教官で右も左も分か

らなかった自分に研究のいろはをご教授いただいた富澤貞男先生、現指導教官であり様々なサポートをしてくださる田畑耕治先生、自分の研究に対するモチベーションを上げてくださるベイズ会の皆様、毎日の元気をくれる研究室のメンバー、そして自分の両親に、厚く感謝申し上げます。

本研究は、ordinal response modelにおけるベイズ的アプローチにおいて、外れ値に対するロバスト性を posterior robustness の観点から明らかにした研究になっています。尤度ベースの事後分布では posterior robustness が成り立たないことを証明し、一般化ベイズの枠組みを用いて提案した一般化事後分布が posterior robustness を満たすことを証明しました。

今回の受賞を励みに、より一層研究に精進していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

### 3. 2023年度統計関連学会連合大会のお知らせ (第一報)

運営委員長	竹内 光悦 (実践女子大学)
実行委員長	西山 慶彦 (京都大学)
プログラム委員長	橋口 博樹 (東京理科大学)

#### 1. 2023年度統計関連学会連合大会について

2023年度統計関連学会連合大会は、応用統計学会、日本計算機統計学会、日本計量生物学会、日本行動計量学会、日本統計学会、日本分類学会の主催により、下記要領にて開催いたします。

開催場所は京都大学 (吉田キャンパス) を予定していますが、コロナ禍の状況を確認しつつ、開催方式については現在検討中です。3月上旬発行予定の第二報にてご案内の予定です。

日程：2023年9月3日 (日) - 7日 (木)

9月3日：チュートリアルセッションおよび市民講演会

9月4日 - 7日：本大会 (一般講演、企画セッション、コンペティションセッション、ソフトウェアセッションなど)

#### 2. 各種企画について

本大会においても従来の大会と同様に、チュートリアルセッション、市民講演会、企画セッション (4月上旬に締め切りを設定予定)、コンペティションセッション、ソフトウェアセッションなどを予定しています。何かご意見やご提案をお持ちの方はプログラム委員会 (kikaku2023(at)jfssa.jp) までお知らせください ((at) を @ に置き換えてください)。企画セッションの公募は第二報 (3月上旬発行予定) で、各種企画は第三報 (5月上旬発行予定) で、それぞれお知らせする予定です。

#### 3. 一般講演や大会参加について

一般講演や参加の事前申込、報告集原稿提出は今後開設するホームページ上で行います。一般講演申込の締め切りを5月下旬 (予定) とし、それ

以降に、報告集原稿提出および参加の事前申込の締め切りを設定いたします。発表を計画されてい

る方は予定に組み込んでいただければ幸いです。確定した期日は、第三報でお知らせいたします。

## 4. 第17回日本統計学会春季集会のお知らせ（第二報）

大森裕浩（日本統計学会理事長）

吉羽要直・小方浩明・長倉大輔・中妻照雄・中山厚穂・星野崇宏（企画・行事委員会）

中山厚穂・小方浩明・下清水慎・森治憲・吉羽要直（実行委員会）

第17回日本統計学会春季集会を東京都立大学南大沢キャンパスにて、遠隔でのリアルタイム参加も可能な形で開催いたします。プログラムは招待講演による企画セッションを5つとお昼の時間帯にポスターセッションを設けます。セッションおよびプログラムは、随時、春季集会 Web サイトにてアナウンスいたします。

また今回もポスターセッションの発表を広く募集しております。今回のポスター発表は現地での対面報告とオンラインでの報告を選べるようにし、いずれも1報告当たりのコアタイムを55分とした入れ替え制とします。ポスター発表の応募に際しては、概要と審査用の予稿をご準備ください。優れたポスターに対して、「優秀発表賞」と「学生優秀発表賞」を授与いたします。セッション終了後、授賞式を行います。会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

### 記

日時：2023年3月4日（土）

10時00分～18時00分

会場：東京都立大学南大沢キャンパス1号館

共催：日本統計学会、東京都立大学金融工学研究センター、統計質保証推進協会

学会員参加費：学会員は無料（ただし事前に参加登録が必要です。共催関係者以外の非会員は有料です。懇親会費は有料で事前に入金をお願いします。）

非会員参加費：一般5000円、学生3000円（2月24

日（金）までの登録）、2月25日（土）以降の登録は、一般7000円、学生5000円。

懇親会：2023年3月4日（土）

18時30分～20時30分

懇親会費（会員・非会員共通）：一般5000円、学生2000円（2月24日（金）までの登録）、2月25日（土）以降の登録は、一般6000円、学生3000円。

懇親会会場：ルヴェ・ソン・ヴェール南大沢（東京都立大学国際交流会館内）

○プログラム等の詳細情報は、春季集会 Web サイトをご覧ください。

○事前参加登録

本集会は、会場の都合上、事前の参加登録にご協力ください。オンライン聴講は事前の参加登録が必須です。春季集会 Web サイト内の参加申込ページより、2月24日（金）までにお申し込みください。

○ポスターセッションの申込み

春季集会 Web サイト内のポスターセッション申込ページより、2月13日（月）までに参加者が春季集会 Web サイトで参照可能な概要を添えてお申し込みください。ポスターセッションに関する詳細も同ページをご覧ください。表彰の審査対象は、日本統計学会会員（ポスター発表申し込みまでに入会の手続きをしている方）に限定しておりますので、ご留意ください。表彰の審査を希望される方は、審査員のみ参照可能な A4用紙4枚以内の審査用予稿をご準備ください。

## 5. 日本統計学会各賞受賞候補者の推薦募集

大森 裕浩（日本統計学会理事長）

日本統計学会制定の以下の各賞の受賞候補者の推薦を募集します。

第28回 日本統計学会賞

第3回 日本統計学会中村隆英賞

第19回 日本統計学会統計活動賞

第19回 日本統計学会統計教育賞

第17回 日本統計学会研究業績賞

第16回 日本統計学会出版賞

第37回 日本統計学会小川研究奨励賞

いずれも推薦期間は、2022年12月5日（月）から2023年3月24日（金）と致します。推薦書の書式は全て学会ホームページ（<https://www.jss.gr.jp/society/prize/>）からダウンロード可能です（今年度より推薦書書式が新しくなりましたのでご注意ください）。推薦書は各賞ともすべて電子ファイル（パスワード保護、ファイル中のテキストを抽出できる形式でお願いします）を学会事務局宛に電子メールにてお送りください。メールの標題には、賞の名称を明記してください。（例：「日本統計学会賞推薦書類」）

不明な点は学会事務担当者にご照会下さい。

[照会先]

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内

日本統計学会

TEL & FAX：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

以下に各賞共通の規程並びに各賞個別の概要をお示しします。

### ○各賞共通

[推薦方法]

推薦者は各賞所定の書式に従って推薦する。各

賞受賞候補者を推薦することができる者は、日本統計学会の正会員、名誉会員に限る。

[選考方法]

各賞受賞対象者の選考は、日本統計学会に設けた各賞の選考委員会が、会員の推薦を受けて実施する。

[発表]

各選考委員会は選考結果を日本統計学会代議員会に報告し、大会期間中に授賞式を行う。

### ○各賞の概要

#### 日本統計学会賞

[趣旨]

統計学の研究および普及に対して貢献した個人に対して授与し、その功績を顕彰する。

[対象範囲]

対象とする分野は次の通りとし、全体として年間3名程度に授与する。

理論：統計学の理論の発展に多大の貢献のあった者

実証・応用・計算：この分野は以下のような内容を含む。

- (1) 人文・社会系では、経済、経営の実証分析、社会学、言語学、心理学の調査・分析など、統計的手法を利用して社会的現象を解明するのに貢献のあった者。
- (2) 医学、工学、農学、理学などでは統計的手法の適用による具体的な問題の解決に対する貢献のあった者。
- (3) 統計計算では、統計的分析のためのアルゴリズム・ソフトウェアの開発に貢献のあった者。
- (4) 応用一般として、分野を問わず統計調査の標本設計、経営管理などで貢献のあった者。

その他：理論・実証・応用などを含め、幅広く統計学の普及・発展に貢献した者。

[推薦・選考方法]

推薦者は所定の書式にしたがって、対象範囲に定められた分野のいずれかに候補者を推薦する。選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

賞状および記念品などの副賞を授与する。

### 日本統計学会中村隆英賞

[趣旨]

経済統計の研究及び実務並びにこれに関連する分野の分析、理論、手法等の発展において顕著な業績のあった個人を顕彰し、我が国の経済統計の発達、普及、啓発に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞対象者は、経済統計の研究及び実務又はこれに関連する分野の分析、理論、手法等の発展に関し、多年にわたり顕著な功績のあった個人とし、日本統計学会の会員・非会員の別を問わない。授賞対象は、原則として年間2名以内とする。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、及び会長が推薦し理事会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状並びに副賞として賞金、記念品及び中村隆英氏の著書を授与する。

[参考]

この賞は、第18代日本統計学会会長を務められた故中村隆英氏のご遺族からの寄付を受け、同氏が活躍された分野及び関連する分野において多大な業績を挙げた研究者、実務家等を顕彰することを目的として2020年5月末に創設されたものであり、2023年度が第3回の授賞となります。日本統計学会中村隆英賞規程については、下記URLをご

参照ください。

<https://www.jss.gr.jp/wp-content/uploads/nakamura20200530.pdf>

### 日本統計学会統計活動賞

[趣旨]

研究や教育に限らず、広く統計学及び統計の分野において高く評価しうる活動を顕彰する。

[対象範囲]

授賞の対象は、次に掲げる分野の活動とし、毎年2件以内に授与する。

- (1) 統計学及び統計を支える基盤の充実・高度化（統計関連領域の研究・教育組織の設立、実務家へのサポート、統計に関する企画・推進等）。
- (2) 研究・教育のための環境整備に対する貢献（ソフトウェア、データ・ベースの開発及び支援等）。
- (3) 新たな研究領域・分野の開拓。
- (4) 新たな統計の作成（個人、グループ・団体等による統計の作成と継続、及び作成機関における従来活動を越えた取組み等）。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、学会活動特別委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞対象となる活動を担った個人又はグループ・団体には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会統計教育賞

[趣旨]

統計教育の研究及び実践において顕著な業績を挙げた個人又は団体を顕彰し、わが国の統計教育の発展並びに統計の普及、啓蒙に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

授賞の対象となる者は、次に掲げる分野において多大の貢献のあった個人又は団体とし、毎年2件以内に授与する。

- (1) 統計教育に関する著書、論文
- (2) 統計教育の実践
- (3) 統計教育に用いるソフトウェア、テキスト、教材等の開発
- (4) 統計の普及、啓蒙
- (5) その他統計教育の発展に寄与する活動

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、統計教育委員会委員長、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会研究業績賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野における優れた研究業績を顕彰する。

[対象範囲]

過去5年程度に内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文、あるいは過去5年程度に出版された統計学に関する図書、統計学関連の研究成果を著した図書を審査対象とする。授賞の対象となる者は、原則、日本統計学会の正会員もしくは学生会員とする。授賞件数は毎年2件程度とし、過去もしくは当該年度において「日本統計学会小川研究奨励賞」の授賞対象となった論文は対象としない。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会出版賞

[趣旨]

統計学及びその関連分野において優れた図書（研究、教育あるいは啓蒙）を出版した著者、編者、訳者あるいは出版社を顕彰し、わが国の統計学の発展に貢献することを目的とする。

[対象範囲]

審査の対象は、次に挙げるいずれかの要件を満たすものとする。

- (1) 著者、編者あるいは訳者として、過去5年程度に刊行された統計学に関連する図書。
- (2) 過去5年程度に刊行された統計学に関する出版企画。

授賞件数は毎年2件以内とする。

[選考方法]

選考委員の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び賞牌を授与する。

### 日本統計学会小川研究奨励賞

[趣旨]

若手の統計学研究を奨励する。

[対象範囲]

授賞対象者は、過去3年程度に内外の統計学関連の学術誌上で発表された論文、あるいは過去3年程度に出版された統計学に関する図書、統計学関連の研究成果を著した図書の主たる著者とし、日本統計学会の正会員もしくは学生会員であって、推薦書を受理した時点において35歳未満の者とする。授賞対象は原則として毎年1名とし、過去もしくは当該年度において「日本統計学会研究業績賞」の授賞対象となった論文は対象としない。

[選考方法]

選考委員会の構成は以下の通りとする。

- ・日本統計学会会長、前会長、理事長、JJSD 担当理事、和文誌編集担当理事、及び会長が推薦し代議員会が承認した者若干名。
- ・選考委員会委員長は、原則として日本統計学会

会長が務める。

[賞の内容]

受賞者には、賞状及び副賞として賞金及び小川論文集を授与する。

## 6. 2023・2024年度代議員選挙結果

2021・2022年度選挙管理委員

小池 孝明（一橋大学）

矢野 恵佑（統計数理研究所）

2022年11月24日（木）、統計情報研究開発センターにおいて、選挙管理委員2名（小池孝明、矢野恵佑）により、2023・2024年度代議員選挙の開票が行われました。その結果、定款第5条2により、次の34名が選出されました。

會田雅人、青嶋誠、赤谷俊彦、足立浩平、岩崎学、上野玄太、大森裕浩、加藤昇吾、狩野裕、鎌倉稔成、川崎茂、川崎能典、川野秀一、栗木哲、栗原考次、西郷浩、酒折文武、清水誠、瀬尾隆、

高部勲、竹村彰通、田畑耕治、椿広計、富澤貞男、中西寛子、西山慶彦、樋口知之、廣瀬慧、南和宏、南美穂子、山下智志、山本義郎、美添泰人、渡辺美智子（以上34名、五十音順）

有権者1351名（正会員1337名及び名誉会員14名）中、投票者数146名、投票用紙延べ記名者数695、うち有効683、同無効47（記入票12、白票35）でした。

## 7. 理事会・委員会報告（2022年10月1日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2022年10月1日（土曜日）午後1時00分～午後1時41分

場所：東京大学本郷キャンパス小島ホール1F第1セミナー室

ハイブリッド出席型バーチャル理事会として実施

Zoom（ミーティングID：885 4351 0504）

理事の総数 14名 出席理事の数 14名

監事の総数 3名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：樋口知之の会長、大森裕浩理事長、小山慎介（庶務）、小池祐太（庶務）、吉田靖（会計）、青嶋誠（JJSD）、柳原宏和（会誌編集和文）、中島上智（広報）、吉羽要直（大会・企画・行事）、各務和彦（国際）、荒木由布

子（国際）、瀬尾隆（渉外）、佐藤整尚（渉外）、竹内光悦（教育）

（以上14名、括弧内は役割分担）

監事：川崎茂、岩崎学、山下智志

**第1議案 センサス@スクールに関するシステム改修費用の支出計画について**

大森理事長より、資料に基づき、センサス@スクールの移転に伴うシステム改修費の支出計画について説明がなされ、竹内理事より補足説明がなされた。審議の結果、承認が得られた。

**第2議案 理事の選任について**

大森理事長より、資料に基づき、青嶋 JJSD 担当理事の辞任の申し出について報告がなされた。また、増田弘毅氏を後任の理事として委嘱することを、定款第18条第

1項の定めに基づき社員総会に諮ることが提案され、審議の結果、承認が得られた。

### 第3議案 常設委員会における委員の交代について

大森理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員長および委員の交代が以下の通り提案され、審議の結果、承認が得られた。

#### ・JSD 支援委員会

青嶋誠委員長より増田弘毅委員長に交代（社員総会における JSD 担当理事交代の承認日付）

#### ・大会委員会

今泉允聡委員、高部勲委員、茂木快治委員より植松良公委員、竹内明香委員、矢野恵佑委員に交代（2022年10月1日付）

### 第4議案 学会賞各賞の候補者推薦と選考委員について

大森理事長より、資料に基づき、学会賞各賞の候補者推薦を開始することが提案され、審議の結果、承認された。推薦受付期間は2022年12月5日（月）から2023年3月24日（金）までとした。

### 第5議案 社員総会招集の件

樋口会長より、社員総会を以下のとおり招集する旨が述べられた。その可否を理事に諮り、承認が得られた。

#### 1. 日時 2023年3月3日（金）

午後6時00分から

#### 2. 場所 オンライン開催（Zoom）

#### 3. 会議の目的事項

（1）社員総会における通常の審議

### 第6議案 被選代議員会招集について

樋口会長より、被選代議員会を以下のとおり招集する旨が述べられた。その可否を理事に諮り、承認が得られた。

#### 1. 日時 2023年3月3日（金）の社員総会終了後、

午後7時30分頃から

#### 2. 場所 オンライン開催（Zoom）

#### 3. 会議の目的事項

（1）会長候補者の選出

（2）被選理事長の選出

### 第7議案 会員の入退会

大森理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者が紹介され、審議の結果、一部修正の上で承認が得られた。

### 一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時：2022年10月1日（土曜日）午後1時41分～午後3時12分

場所：東京大学本郷キャンパス小島ホール1F第1セミナー室

ハイブリッド出席型バーチャル委員会として実施

Zoom（ミーティングID：885 4351 0504）

出席：理事13名、監事3名、計16名

樋口知之会長、大森裕浩理事長、小山慎介、小池祐太、青嶋誠、柳原宏和、中島上智、吉羽要直、各務和彦、荒木由布子、瀬尾隆、佐藤整尚、竹内光悦、岩崎学（監事）、川崎茂（監事）、山下智志（監事）

欠席：吉田靖

#### <報告事項>

#### 1. JSD 支援委員会

青嶋委員長より、JSDの編集状況と今年の投稿状況について報告がなされた。

#### 2. 和文誌編集委員会

柳原委員長より、和文誌の編集状況について報告がなされた。

#### 3. 大会委員会

吉羽委員長より、資料に基づき、大会委員の交代について報告がなされた。

#### 4. 企画・行事委員会

吉羽委員長より、日本統計学会春季集会の準備状況について報告がなされた。

#### 5. 庶務委員会

小池委員長より、以下について報告がなされた。

#### ・後援承諾について

・人文科学とコンピュータシンポジウム（じんもんこん2022）

主催：（社）情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会

・統計・データサイエンス力向上のための授業に係る優秀事例表彰

主催：（公財）統計情報研究開発センター

#### ・推薦について

・2022年度朝日賞

・横幹連合コトづくりコレクション

・ロゴマークの使用許可について

- ・統計質保証推進協会 統計検定オープンバッジ
- ・代議員選挙について

## 6. 広報委員会

中島委員長より、10月末発行の会報の準備状況について報告がなされた。

## 7. 国際関係委員会

各務委員長より、JSS-KSS-CSA合同セッションおよびJJSDセッションについての報告がなされた。

## 8. 渉外委員会

樋口会長より、横幹連合の理事候補の推薦について報告がなされた。

## 9. 質保証委員会

瀬尾委員長より、統計質保証推進協会の事業委員会について報告があった。

## 10. ISI 東京大会記念基金運営委員会

川崎委員長より、ISI 東京大会記念基金について報告があった。

## 11. 統計教育委員会

竹内委員長より、以下の活動報告があった。

1. 統計関連連合大会企画セッション「Society 5.0の実現に向けた統計教育に関する動きと課題」
2. 中高生スポーツデータ解析コンペティションの実施
3. ISLP 国際統計ポスターコンペティションの日本予選会の受付
4. 理数系学会教育問題連絡会
5. 理数系教員統計・データサイエンス授業力向上研修集会

## 12. その他

小池庶務委員長より、2022年度のJINSE活動について報告があった。

### <審議事項>

### 1. JJSD 支援委員会

審議事項なし

### 2. 和文誌編集委員会

審議事項なし

### 3. 大会委員会

審議事項なし

### 4. 企画・行事委員会

吉羽委員長より、第17回春季集会におけるブース出展について提案があり、審議の結果、ブース出展の募集を行うかどうかの判断は企画・行事委員会に一任することにした。

## 5. 庶務委員会

小池委員長より、資料に基づき、以下について提案があり、審議の結果、承認された。

- ・和文誌冊子体の配付方法変更の案内について
- ・和文誌冊子体の配付方法変更に伴う入会申込書の修正について
- ・和文誌への投稿に関するウェブサイトの掲載内容の修正について

## 6. 広報委員会

審議事項なし

## 7. 国際関係委員会

審議事項なし

## 8. 渉外委員会

審議事項なし

## 9. 質保証委員会

審議事項なし

## 10. ISI 東京大会記念基金運営委員会

審議事項なし

## 11. 統計教育委員会

審議事項なし

## 12. その他

審議事項なし

### 今後の予定

2022年11月19日（土）13：00

日本統計学会春季集会準備会議：オンライン開催

2023年2月9日（木）18：00

理事会：開催形式未定

2023年3月3日（金）18：00

臨時社員総会：オンライン開催

2023年3月4日（土）

日本統計学会春季集会：東京都立大学南大沢キャンパス、ハイブリッド開催（予定）

2023年5月13日（土）13：00

理事会：開催形式未定

## 8. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を紹介いたします。

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月の順に掲載いたします。

### 博士論文

● (1) 貝淵響 (2) 博士 (統計科学) (3) 総合研究大

学院大学 (4) Quantitative Risk Management Using Extreme Value Theory (5) 川崎能典 (6) 2022年9月

● (1) 嶋村海人 (2) 博士 (工学) (3) 電気通信大学 (4) Bayesian Sparse Modeling for Grouping of Individuals and Variable Selection (5) 川野秀一 (6) 2022年9月

## 9. 学会事務局から

### 学会費払込のお願い

2022年度会費の請求書が会員のお手元に届いていることと思います。会費の納入率が下がると学会会計に大きく影響いたします。速やかな納入にご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払込制度もご用意しています。次の要領を参照の上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカードでの学会費払込も受け付けております。お申込みは学会ホームページよりお願いいたします。  
(<https://www.jss.gr.jp/fee/>).

### 学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6  
能楽書林ビル5F  
公益財団法人統計情報研究開発センター内  
日本統計学会担当

Tel & Fax : 03-3234-7738

E-mail : [shom@jss.gr.jp](mailto:shom@jss.gr.jp)

### 訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

浅野 長一郎 名誉会員 高倉 節子 会員
-------------------------

### 現在の会員数 (2022年12月15日)

名誉会員	13名
正会員	1,374名
準会員	9名
学生会員	64名
総計	1,460名
賛助会員	17法人
団体会員	8団体

## 10. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの、会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

### ◆来日統計学者の紹介

訪問者の略歴、滞在期間、滞在先、世話人などをお知らせください。

◆博士論文・修士論文の紹介

(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。

◆求人案内（教員公募など）

◆研究集会案内

◆新刊紹介

著者名，書名，出版社，税込価格，出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし，主観的な表現は避けてください。

◆会員活動紹介（叙勲・受章，各種受賞等）

できるだけ e-mail による投稿，もしくは，文書ファイル（テキスト形式）の送付をお願い致します。

原稿送付先：

〒186-8603

東京都国立市中2-1

一橋大学 経済研究所 中島 上智 宛

E-mail: [koho@jss.gr.jp](mailto:koho@jss.gr.jp)

（統計学会広報連絡用 e-mail アドレス）

- 統計学会ホームページ URL：  
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL：  
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL：  
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス：  
[meibo@jss.gr.jp](mailto:meibo@jss.gr.jp)
- 広報連絡用 e-mail アドレス：  
[koho@jss.gr.jp](mailto:koho@jss.gr.jp)
- その他連絡用 e-mail アドレス：  
[shom@jss.gr.jp](mailto:shom@jss.gr.jp)